

---

# 好きって何？

澪香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

好きって何？

### 【Zコード】

Z2257BA

### 【作者名】

澪香

### 【あらすじ】

友達がいない、嫌われ者の安藤董と謎の転校生の水谷太陽がえがく短編恋愛ストーリーです。

私の名前は安藤董 あんどうすみれ

今年から中学生になるんだけど、教室の雰囲気もあんまり変わらない

小学のときと中学では全く同じメンバーでちょっとどうぞうしてい

ていうか、そもそも私には友達がない

友達と何をするの？あんまり変わらないじゃん！

皆さんも嫌われてるみたいだし別におもしろいことなど起きるはずがない！

「今日は転校生が来ます」

ドアが開き一人の男が教室に入ってくる

「水谷太陽みずたにたいようです。よろしくお願ひします」

太陽くん…心臓がなぜかバクバクしている。

私は感情というものが理解できない…いや、理解したくない！

「えっと董さんだよね。よろしく」

太陽くんは、なぜか私の隣の席だった。

「うん… よりしく」

久しぶりに学校で声を出した気がする。

「太陽くん、この人、嫌われるから話しかけないほうがいいよー。」

前の席の女子が、太陽くんに注意した。本人の前で言つた。

「ええーなんで嫌われてんの？ 可愛いじゃん！」

そんなの言われたの初めてだ、いつも「なんか話せよー。」って皆にいじめられてんだぞ！

「私と話すといじめられる… 嫌くないの？」

私が半分くらい勇気を出して言つてみた。

「なんで怖いの？ よくわかんねえー、俺、董の」と可愛こと思つてるよ？」

キョトンとした顔で太陽くんは言つ。

「いじめられるんだよ… 嫌くないの？」

私はだんだん感情的になつてきた。

「董となら、怖くないな！」

なつ！

「どうして？」

「皆の前で言つていいのか？」

いつの間にか、太陽くんの目は真剣になつていた。

「じゃあ、休み時間…」

「OK！」

これで話は終わつた。

心臓がずっとバクバクと止まらない。

「授業はじめるやおー！」

先生が教室に入つてきた。

一時間は数学だつた。

私は超苦手教科の数学で、ちょっとテンションは下がつていた

「じゃあ…」この問題が分かる人…」

昨日の授業の復習だ。

「はい…」

太陽くんは一番最初に手を挙げる。

「おっ、水谷君！」

「えっと、女の人が一人で三時間だから一人あたり～」

「正解！」

「すごい～」のクラスは数学が得意で有名なのだ…私を除いてだが。

「おおーすげえー」

クラスはザワザワしている。

太陽くんは椅子に座る。

「太陽くん！すごいね！私、数学苦手だから…」

思わず言つてしまつた…私らしくない。

「やつぱり董はかわいいなあー」

ボーと太陽くんはこちらを見る

「そんなことないよ！太陽くん、もてるでしょ！」

「ない、ない、だつて理想の子がいないもん！」

キンコーンカンコーン

「理想があー」ボソリとつぶやきながらも私は、席で一人、本を読んでいた

「いたいた、探したんだぞー！」

太陽くんが勢いよく教室に走ってくる。最初から「」だったんだけど…

「俺の気持ち…ぶつけでいいんだよなー」

真剣の田で「」を見る…田が放せない

「…」

じうせ、嫌われるんだろう、今までもそうだった。

「…」

「？」

なんで「す」なんだ？

「す…好きだー董は俺が守るからー。」

「なつーなんで」

「ー田惚れつてやつ？」

こきなり告白された…

「返事は明日でいいから！」

太陽くんはそういうとリュックを背負つて帰ろうとしていたので手をつかんだ。

「今…今じゃダメかな…」

自分の顔が急に顔が真っ赤になつたのが、分かる。

「ああ、」

「わ…私も！」

私は好きという感情がどんなものか分からなかつたが、きっとこの胸の苦しみと嬉しさが好きつて感情なのだろう。

太陽くんも私も顔は真つ赤だつた。一人しかいない教室には私も心臓の音が鳴り響いていた。

「一緒に帰ろう」

太陽くんは私の手をギュッとかみ、歩き出す。

「な…なんで…一緒に帰るつて…」

「董は俺が守るつて言つただろ！」

そのまま、学校を出て外へ出た。もつ夕田が出ている。

私達は、誰もいない公園で一人、ベンチに座つた。

「じゃあ、また明日ー。」

太陽くんが、帰らうとしたのを、また手をつかんだ。

太陽くんがこちらを向く。

「太陽くん、私、好きって気持ちが分かつた」

私はそういうと、自然と目をとじる。

「俺も…」

私と太陽くんは夕日にてさらされ、この先もずっとずっと永遠の愛を誓つた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2257ba/>

---

好きって何？

2012年1月5日19時48分発行